

九州工業大学
不正防止対策実施計画（令和4年度）
取組状況報告書

九州工業大学コンプライアンス室研究公正推進係、公的研究費不正使用防止計画推進委員会
2023/03/27

はじめに

平成26年2月に、文部科学省が「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」を改正したことを受け、本学では、研究不正防止の体制を大幅に強化することとし、研究活動等の不正に対する基本方針（九州工業大学研究活動等不正防止ポリシー）を学長が宣言した。

その後平成26年8月に、文部科学省が「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」を制定したが、両ガイドラインに基づき、本学として上記基本方針を実現するための全学的な不正防止（研究活動の不正行為防止及び公的研究費の不正使用防止）に関する取組計画である「九州工業大学不正防止対策実施計画」を制定し、平成26年度から毎年計画にそって不正防止の体制整備を積極的に進めてきた。

今年度も昨年度同様、不正防止に関する運用体制をより向上させるために、今まで行ってきた取組み結果を点検・評価し、より適切な運用体制に変えることに主眼を置いた不正防止対策実施計画を策定し、本計画に基づき、研究活動の不正行為防止及び公的研究費の不正使用防止に関する具体的な取組を進めていくものとする。

令和4年度 実施計画

1 研究活動等不正防止のための組織体制の点検・維持

目標：学長の強いリーダーシップのもと、本学の不正防止対策の活動を強力に進めていく体制を維持するために、組織体制の運用状況を点検し、不備があれば改善を図る。

計画：令和4年度中に検討・実施するもの

【公的研究費不正使用防止計画推進委員会、コンプライアンス室研究公正推進係】

- ・令和4年4月の組織改正により、不正防止を推進する体制として、新たにコンプライアンス室研究公正推進係を新設し、研究活動の不正行為防止の担当をすることとなった。公的研究費の不正使用防止は昨年度同様、公的研究費不正使用防止計画推進委員会が担当する。今年度から本推進体制で行くこととし、実施すべき事項は着実に実施し、不備な点があれば改善する。

計画の実施状況

○令和4年度中に検討・実施した事項

- ・令和4年4月の組織改正により、不正防止を推進する体制として、新たにコンプライアンス室研究公正推進係を新設し、研究活動の不正行為防止の担当をすることとなったが、本不正防止対策実施計画の取組みは、理事（ダイバーシティ&インクル

- ージョン担当)を中心として、実施することができた。
- ・教職員の理解、協力により今年度において特に研究活動等の不正は発生しておらず、次年度においても不正が起きないように引き続き現体制で不正防止対策を実施する。
 - ・毎年度作成してきた「不正防止対策実施計画」については、研究活動及び公的研究費の不正の防止であることを明確にするため、令和5年度から名称を「研究不正防止計画」に改め、文部科学省の実施基準の改正の趣旨(ガバナンス強化)を踏まえ、学長裁定とした。「研究不正防止計画」は、必要に応じて修正し、研究公正委員会ではじめに確認し、年度末に取組状況報告書を作成することとする。
- 「公的研究費リスク別対応計画」は、「研究不正防止計画」の一部であり、かつ「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に規定されている実務的な計画であることから、担当部署へ実効性を上げるための見直しを行い、これまでどおり、毎年度作成・制定を行う。
- また、公的研究費の不正使用防止について、令和3年2月1日付けのガイドライン改正に基づく規程の改正に伴い、不正防止を一層推進する。

2 不正の発生要因に応じた公的研究費リスク別対応計画の策定と推進

目標：昨年度策定し、実施した公的研究費リスク別対応計画(不正の発生する要因について分析、整理し対応計画として策定したもの)の取組結果をうけ、新たに令和4年度公的研究費リスク別対応計画を策定・実施し、組織全体の不正の発生リスクを逡減させる。

計画：令和4年度中に検討・実施するもの

【公的研究費不正使用防止計画推進委員会、コンプライアンス室監査係、総務人事課、経理課、研究企画課】

- ・令和4年度の公的研究費リスク別対応計画は、昨年度のリスク別対応計画の取組結果をベースに、公的研究費の不正使用防止に関する運用体制をより向上させるため、別途「九州工業大学公的研究費リスク別対応計画(令和4年度)」を策定し、実施する。また、公的研究費リスク別対応計画は、教育研究評議会において報告し、別途公表する。

計画の実施状況

○令和4年度中に検討・実施した事項

- ・昨年度のリスク別対応計画の実施結果で改善した事項について、その後の状況点検を行うこと等を今年度の計画に盛り込み、更なるリスク低減を目指した「九州工業大学公的研究費リスク別対応計画(令和4年度)」を策定し、改善に取り組んだ。
- ・リスク別対応計画の取組結果については、教育研究評議会において報告し、別途公

表する。

3 各種規程、運用ルール等の点検・見直し

目標：各種規程、運用ルール等の点検・見直しを適切に行い、研究活動等に関する適正な運営・管理ができる環境を維持する。

計画：令和4年度中に検討・実施するもの

【公的研究費不正使用防止計画推進委員会、研究企画課、総務人事課、経理課】

- ・本計画の推進による業務変更及び法令等の改正を常に把握し、学内の各種規程や運用ルール等の見直しを随時行い、研究活動等に関して適正な運営・管理ができる環境を維持する。
- ・研究データの保管・管理については、適正に行われているか点検を実施する。

計画の実施状況

○令和4年度中に検討・実施した事項

- ・毎年実施している「研究データ保存に係る（研究データ保管管理簿）の整備状況の点検」に関連して、さらに、同時期に研究データの保管状況について、研究データ保管管理簿と現物との整備状況点検作業を継続的に実施している。

4 学内外への情報の周知、公開の実施

目標：研究活動等の不正防止に関する取り組み体制、各種規程、運用ルール等を学内外に対して適切に周知、公開する。

計画：令和4年度中に検討・実施するもの

【公的研究費不正使用防止計画推進委員会、研究企画課、総務人事課、経理課】

- ・整備した方針、体制、規則、各種相談窓口等について、学外に対しては本学公式 Web ページ上に掲載し、また、学内に対してはグループウェア上に掲載するとともに、必要に応じて電子メール等を活用し、適宜周知する。
- ・学内については単にグループウェアに情報を掲載するだけでなく、各種職員研修や説明会等の機会を通じ、積極的に周知し、より一層の学内での理解度向上を図る。

計画の実施状況

○令和4年度中に検討・実施した事項

- ・整備した方針、体制、規則、各種相談窓口等については、逐次本学公式 Web ページ及び学内グループウェア等を通じ周知を図った。
- ・科研費説明会、会計事務連絡会、剽窃検知・独自性検証ツール「iThenticate」利用講習会、新任職員研修等で、運用ルールや研究活動等の不正防止に関する説明を

行い、教職員に対して注意意識及び理解度の向上を図った。

- ・他大学の研究機関における不正事案（文科省公表や報道記事）について、定期的に教職員に対してメール及び学内グループウェアにて通知し、注意喚起を行った。
- ・文部科学省「研究活動における不正行為の防止の徹底について（通知）《4文科科第82号 令和4年5月9日》」において、特定不正行為以外の不正行為（二重投稿、オーサーシップ）の不正認定が増えていることなどから、二重投稿や不適切なオーサーシップに関する定義や規定化について整備するよう通知があった。これにより、本学の関連規程を見直し、本学の指針「研究成果を適切に発表するための指針」の博士号請求論文における転載の考え方やオーサーシップの在り方についての見直しや研究成果発表における責任著者の役割、研究成果の発表における遵守事項やチェック項目の追加など、指針の改正を行った。このことについては、全学戦略会議へ報告し、その後に教職員に対してメール及び学内グループウェアにて通知し、学内への周知・徹底を図った。

5 研修・教育の実施

目標：研究活動等の不正防止に関する取り組み体制、各種規程、運用ルール、研究倫理等を職員及び研究者に対して徹底し、不正防止対策の理解や意識を高める。また、学生に対して、研究に対する姿勢と学術の両面の教育を行い、理工系人材としての品格と資質を併せ持つ学生を育成する。

計画：令和4年度中に検討・実施するもの

【公的研究費不正使用防止計画推進委員会、研究企画課、総務人事課、経理課】

- ・新たに採用された職員にコンプライアンス教育（各法令、公的研究費の不正使用防止等）を受講させ、教育の受講後に内容を理解し法令等を遵守する旨を誓約する誓約書を提出させる。コンプライアンス教育に加え研究活動に携わる教育職員、技術職員等にはさらに研究倫理教育（研究活動の不正行為防止）を受講させる。
- ・研修会や説明会等様々な機会をとらえ、研究活動の不正行為防止及び公的研究費の不正使用防止について周知徹底を図る。
- ・啓発活動の一環として、不正事案の分析を行い、学内に情報共有を図る。

【研究企画課、公的研究費不正使用防止計画推進委員会、教育高度化本部】

- ・学生に対する不正防止に関する階層別教育を引き続き実施し、教育内容及び実施方法について点検を行い、問題があれば改善を図る。

計画の実施状況

○令和4年度中に検討・実施した事項

- ・新たに採用された全職員にコンプライアンス教育を受講させ、修了後「誓約書」を、提出させた。これに加え研究倫理教育を受講した者には、修了後「修了証書」を提出させた。
- ・科研費説明会、会計事務連絡会、剽窃検知・独自性検証ツール「iThenticate」利用講習会等で、運用ルールや研究活動等の不正防止に関する説明を行い、教職員に対して注意意識及び理解度の向上を図った。
- ・啓発活動の一環として、ヒヤリ・ハット事例の情報共有を図った。
- ・学生に対する不正防止の階層別教育を、以下の実施計画に基づき、各部局で実施した。

【実施計画】

学 年	区分	内 容	資 料
学部1年生	啓蒙	オリエンテーション、新入生研修等で実施	JSTパンフレット
学部2年生	導入	オリエンテーションや実験科目等で実施	スライド資料
学部3年生	講義	オリエンテーションや実験科目等で実施	スライド資料
学部4年生	実践	研究室（ゼミ）での指導、卒業論文作成	JSTパンフレットやスライド資料の他、学科（専攻）、研究室、専門分野等の事情に対応した資料を用いる。
大学院	実践	研究室（ゼミ）での指導、修士論文作成	

以 上